

### III. SNUG HARBOUR CULTURAL CENTER

19世紀初頭、海運業で財を成した実業家の遺志によって建てられた船員のためのリタイアメント施設が、民間ディベロッパーに転売されて商業施設として再開発されるという構想に地元住民が反対。長い歴史を残す建物をそのまま活用するため、市の主導で非営利法人「Snug Harbor Cultural Center」が設立され、文化施設として再利用されることとなった。オフィス内の一般事務やギフトショップの販売員、ツアー・コンダクター、もぎり・客席案内など、年間140名のボランティアが活動している。

#### 📄 施設・運営の概要

運営母体	Snug Harbor Cultural Center
所在地	1000 Richmond Terrace, Staten Island, NY 10301
TEL	718-448-2500
FAX	718-442-8534
開館年月	1973年
複合形態	複合館(約34万㎡の敷地に26軒の建物が配置されている)
施設特性	施設ごとに主要用途を特定
座席数	250 (ベテランズ・メモリアル・ホール)
年間運営予算	年間2億8,000万円 (250万US\$)
自主事業数	—
立地都市人口	731万人 (1992年、スタッテン島: 39万人)
組織体制	有給スタッフ数: 約70名



#### 😊 ボランティア制度の概要

名称	—
導入時期	・ (1973年)
登録人数	・ 140名 (内約50名がオフィス内の業務に携わっている)
導入の経緯	—
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オフィス内: ギフト・ショップ販売員、一般事務アシスタント、DM 発送、電話セールス</li> <li>・ 一般催し: ツアー・コンダクター、集客イベントの警備・案内</li> <li>・ パフォーミング・アーツ関連: もぎり、客席案内、プログラム配布</li> </ul>
募集方法	・ 地元新聞、地域情報紙などの印刷媒体への掲載、ローカルのケーブルTV やラジオ局での広告、センターのニュースレターへの掲載、催し物の開催時に配布する印刷物等により募集。
研修	・ 新規ボランティアには年に数回オリエンテーションを開催、個々の詳しいオリエンテーションは各部署の裁量によって開催。
実費支給・特典	・ 半額チケットを2枚進呈、サンキュー・ランチ等への招待、交通費は昼食の支給はなし。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 140名のボランティア組織を管理・運営するため、18名からなる「ボランティア委員会」を設置、任期1年の代表委員によって構成。</li> <li>・ ボランティア・コーディネイターは有給スタッフ。</li> <li>・ 140人のボランティアがいて初めて運営が成立するため、常に新しいボランティアを採用する努力を続けなければならない。</li> </ul>

## 📖 インタビュー記録 📖

- ・訪問先：SNUG HARBOR CULTURAL CENTER
- ・住所：1000 Richmond Terrace, Staten Island, NY 10301
- ・電話：718-448-2500 FAX: 718.442.8534
- ・面会者1：Ms. Marie Penza…Volunteer Coordinator（有給スタッフ）
- ・面会者2：Ms. Beverly Ziel …ボランティア・スタッフ歴6年

### 1. 事業主体の概要

#### (1) 設立年、予算・組織の規模

- ・設立年：1973年
- ・年間運営予算：250万 US\$（約2億8,000万円）
- ・有給スタッフ数：約70名

#### (3) 施設概要 [資料 SHCC-1 参照]

・全敷地面積は83エーカー（約33万6千平米。日本の広いゴルフ場なみの広さ）。ここに26軒の建物と、植物園、公園などが配置されている。主な施設は以下のとおり。

- 1] ビジターズ・センター：案内所、オフィス、ショップ、ミーティングルームなど
- 2] ニューハウス・センター・フォー・コンテンポラリー・アート：美術ギャラリー館
- 3] ベテランズ・メモリアル・ホール：250席のパフォーミング・アーツ用施設
- 4] ミュージック・ホール：現在改修工事中、1997年秋オープン予定
- 5] メルヴィルズ・カフェ：飲食カフェ館
- 6] グレート・ホール：結婚式その他用のパーティー・レセプション館
- 7] サウス・メドウとガゼボ：芝生の広場と野外コンサート用のあずま屋
- 8] アーティスト・スタジオ：アーティスト・イン・レジデンス用の住居棟
- 9] コテージ群：パフォーミング・アーティストの宿泊施設として、改修を計画中
- 10] チルドレンズ・ミュージアム：スナッグ・ハーバーとは別の独立した非営利団体が運営
- 11] ボタニカル・ガーデン（植物園）：スナッグ・ハーバーとは別の独立した非営利団体が運営

・多くの建物は、19世紀初頭から半ばにかけて建てられた歴史的なもの。Greek・リバイバル様式、ボザール様式、ヴィクトリアン・リバイバル様式など、当時の建築様式をつぶさに伝えているため、敷地一帯は「全米歴史保存区域」に、上記建築物のうち6棟は、「ニューヨーク市歴史保存建築」にそれぞれ指定されている。



● 19世紀初頭から半ばにかけてのデザイン様式が残されている

- ・上記10] や11] の他、全部で20以上の別個の独立した非営利団体が、同敷地内の施設を本拠地として活動している。従って、『スナッグ・ハーバー・カルチュラル・センター』は、自らが活動施設団体であると同時に、これらの非営利団体に対する「大屋」の役割も果たしている。

### (3) 年間行事

- ・スタッテン島の中心的文化施設として、はば広いプログラムを催している。特に美術系の催しについては著名作家の展覧会から新人作家の展覧会まで、質の高いことには定評がある。
- ・パフォーミング・アーツ系の催しは、主に「ベテランズ・メモリアル・ホール」で行われる（場合によっては「グレート・ホール」を使用）。250席という施設規模の制約もあって、室内楽、朗読劇、子供向きオペラなど小規模なものが主なプログラム（来年「ミュージック・ホール」の改修工事が終わった後には、著名なダンスカンパニーやある程度の規模の演劇公演などの開催が予定されている）。
- ・7～8月には、「サウス・メドウ」のガゼボを利用して、無料の野外コンサート、民俗音楽祭、ダンス、人形劇、道化芝居や曲芸などの催しが行われる。
- ・その他、主なものとしては1991年から毎年恒例となった秋の「クラフト・フェア」[資料 SHCC-2参照]。全米から50人ほどの工芸作家が自作を持ち寄

り、展示即売会やワークショップを開く。

- 敷地が広く、植物園や100年を経た建物が多く点在することから、「スナッグ・ハーバー散策ツアー」もプログラムの目玉のひとつ。歴史解説などを聞きながら1時間半をかけて敷地内を巡る。毎週末の午後と夕方に2回ずつ、一年中行われる。

#### (4) ボランティア以外のコミュニティ巻き込みプログラム（アウトリーチ）

- 米国では、軽犯罪を侵した者が、罰金や禁固刑の代わりに「〇〇時間のコミュニティー・サービスをせよ」という判決をもらうことがある。一般にはゴミの収集とかホームレス施設での勤務などがこの「コミュニティー・サービス」にあたるが、スナッグ・ハーバーでのボランティア時間も「コミュニティー・サービス」と見なすことのできる指定施設になっている（ただしこうしたケースは稀）。
- 主に小学校高学年～中学生を対象に、クラフト・フェアの手伝いや物販の手伝いに参加してもらう仕組みを、学校のカリキュラム（年中行事）のひとつとして取り入れてもらうように働き掛けている。すたれつつある米国のボランティア精神を教育する意味あいから。

#### (5) ロケーション

- マンハッタンの南端からフェリーで約30分。ニューヨーク市の5区のひとつ。
- 他の四つの区（マンハッタン、ブルックリン、ブロンクス、クイーンズ）がビルのひしめく大都会の様相を呈しているのと違い、スタッテン島の街並みはいわゆる“アメリカ的”で、広い庭を持つ一戸建て住宅が立ち並ぶ。他の四区と違い、住民の生活は車無しでは成り立たない。
- ニューヨーク市の他の四つの区は、貧富の差と教育レベルの差が激しく人種の多様な「都会型」の人口構成であるのに対し、スタッテン島には白人の中産階級の家庭が多い。また、ニューヨークの他の区の白人に比べると学歴や収入のレベルはかなり低い。
- すなわち、人種構成、収入、街並み、景色、住宅事情、教育レベルなどをとって、いわゆる「ニューヨーク的」な特徴はきわめて薄く、「全米の平均的な中産階級の住宅地サンプル」と性格づけるべき地域である。

#### (6) 客層

- 年間集客数は、約25万人。
- ほとんどがスタッテン島の住人。「夫が働き、妻が主婦をして、子供が2～4人」といった典型的な白人の中産階級の家庭の者が多い。
- ニュージャージー州からはフェリーを使わず高速道路でアクセスできるため、ニュージャージー州の中産階級の者も訪れる。

#### (7) 発足の背景

- 1801年、海運業で財を成したロバート・ランドールが、「自分の財を使って船員のためのリタイアメント施設を作る」旨を遺書にしたためて没する。



● リニューアル中の建物（資料 SHCC-1 のA,B）、右側はH: Visitor's Center

1831年、遺志に従って、現在のスナッグ・ハーバーの土地が管財人委員会によって購入される。1933年、リタイアした船員とその家族のための複合住宅施設『セイラーズ・スナッグ・ハーバー』が完成。

- 1960年代までには収容する船員の数が増減したため、管財人委員会は、最後の居住者たちをノースカロライナの同様の施設に移住させ、土地と建物的一切をニューヨーク市に売却。一時は、民間のディベロッパーに転売して商業的に開発するという話もあったが、長い歴史をそのままに残す同施設を保存したいと強く望んだスタッテン島の住人が反対。その意志をくんで、市の主導で非営利法人『スナッグ・ハーバー・カルチュラル・センター』を発足させた。当初の運営は、地域住民のボランティアによって成り立っていた。

## 2. ボランティア・プログラムについて

### (1) 役務の種類

#### ① オフィス内

- ギフト・ショップの販売員＋帳簿管理係
- 一般事務アシスタント
- ダイレクト・メールやニュース・レターなどの封筒づめ、メーリング・ラベル貼り
- メンバー勧誘やチケット販売のための電話セールス

#### ② 一般催し関連

- 「スナッグ・ハーバー散策ツアー」のツアー・コンダクター（案内解説係）
- 「古本市」や「クラフト・フェア」など、大勢の集客のある時の警備・案

内係

- 「古本市」「クラフト・フェア」「野外コンサート」時などの飲食物販売係
- 資金集めのための「富くじ」の販売員
- 展覧会のチケットもぎり
- 展覧会のオープニング・パーティーのための飲食給仕やコート・チェック係（クローク）

### ③ パフォーミング・アーツ関連

- 「ベテランズ・メモリアル・ホール」では、一晩の催し時に参加するボランティアの数は、約6～8名。役割は以下のとおり。
  - 入り口でのチケットもぎり……開演の1時間前に出勤
  - アッシャー（座席案内&プログラム配付係）……開演の1時間前に出勤
  - インフォメーション・カウンター係……資金集めのための「富くじ」販売、アンケート・メモ用紙の配付、メンバーへの勧誘などをを行う。
- 「夏期の野外コンサート」では、1回の催しに参加するボランティアの数は、約12～15名。役割は以下のとおり。
  - 会場整理案内係・兼・プログラム配付係
  - レンタル折畳み椅子の貸し出し係
  - 飲食販売員

## (2) ボランティアの人数

- ボランティア参加者の数は年間約140名。うち50名がオフィス内業務に携わる。

## (3) ボランティア・スタッフの自治構造

- 140名を管理・運営するための自治組織として、18名のボランティアからなる「ボランティア委員会」が存在し、その長として任期1年の「ボランティア・リプレゼンタティブ（代表委員長）」が選出される。
- 「ボランティア委員会」は、反省や今後の計画などを話し合うために、年に5回のミーティングの機会を持つ。ミーティングには、有給のボランティア・コーディネーターが必ずオブザーバーとして出席し、話し合いをリードする。
- ボランティア委員会はボランティア業務についての話し合いをするだけではない。他の文化施設の団体観賞の計画を練ったり（どこの文化施設にも、団体観賞にはチケット割り引き制度がある）、遠隔文化施設へのバス・ツアーの計画を練ったり、時には芸術文化とはまったく関係のない団体旅行の計画を練ったりする。
- これは、自分たち自身が楽しむ「クラブ・ライフ」的なアクティビティであるが、同時に、こういった仕掛けによって仲間＝ボランティア志願者を増やそうという目的にもかなっている。また、ボランティアたちの自主性

と士気を高めるためにも効果がある。

#### (4) 募集と教育

##### ① 広告宣伝

- ローカル新聞、町内新聞、週間地域情報誌など一般の印刷媒体に掲載。ただし、広告掲載料は全く支払わなくてすむ方法で載せる（注：米国の新聞は、コミュニティー新聞に限らず、時にはニューヨーク・タイムズのような大きな新聞でも「Helping Hands」といったような非営利団体サポート用の欄が作られているため）。単に「ボランティア募集」と載せるのではなく、「〇〇の業務をしてくれる〇〇な人」という風に詳細説明を入れる。
- 一般の放送媒体（ローカルのケーブルTV局&ラジオ局）を使っての広告宣伝。番組の合間に募集の旨をしゃべってもらう。これも広告料は無料。
- スナッグ・ハーバーのニュースレターに掲載 [資料 SHCC-3参照]。
- 催し開催時に配るアンケート・メモや富くじの購入申込用紙に、ボランティア参加希望の有無の記載欄を設ける。
- メンバー募集用のカラー・パンフレット上に、「ボランティアに参加しませんか」の呼び掛けを掲載。
- 既存ボランティアを対象に出すニュースレター（たいていは大きなイベントの終了ごとに発送する「Thank You Letter」に、「仲間を誘って欲しい」旨を記載する。
- 地域の教会など、他の団体に協力を呼び掛ける。若い元気な人手が必要な時（例えばクラフト・フェアの会場整理係など）には、「ガール・スカウト」や「キー・クラブ（ティーンエイジャー・ボランティアの派遣・コーディネートをする団体）」などからの人員派遣が頼りになる。

##### ② フォローアップ

- ボランティア参加を希望して来た人には、有給のボランティア・コーディネーターがまず電話をかけて、その人の興味の対象、得意な分野、ボランティア経験の有無などのあらましを問い合わせる。
- その後、「ボランティア・リソース・アンケート用紙」を郵送 [資料 SHCC-4参照]。返送されてきた内容をコンピューターにインプットする。

##### ③ オリエンテーション

- 年に数回、新規のボランティア希望者を集めてオリエンテーションを行う。郵便にて開催日を通知。仕事を持っている人でも参加できるよう、開催は土曜か日曜の昼間、1～2時間程度。
- 「感謝」の意を表すため、また参加者同士が互いにリラックスして言葉を交わしやすい雰囲気をつくるために、お菓子やお茶を準備しておく。
- オリエンテーションの内容は、スナッグ・ハーバーの施設概要や、ミッション、歴史的解説に広くふれるのみ。個々の詳しいオリエンテーションは、各部署ごとの裁量（古参のボランティアが新規ボランティアを指導するというやり方が普通）に任せる。
- ボランティア・スタッフ専用の控え室を案内。使用ルールの説明。

### (5) ボランティア・スタッフのプロフィール

- 平均50～60歳。近年ますます老化の傾向にある。
- 美術にしる舞台芸術にしる、何らかの芸術のジャンルに大きな興味と知識を持っている人が多い。
- 女性の数の方が多い。スタッテン島では仕事を持たない「専業主婦」の割合が高いためか。
- 夏期などの週末のボランティアは「家族ぐるみで参加」というケースも珍しくない。

### (6) ボランティアへの報酬

- 半額チケットを2枚を進呈。
- 「サンキュー・ランチ」「サンキュー・ディナー」「サンキューお茶会」等の開催。年に1回～数回。
- 大イベント終了ごとに、個々のボランティアに対して「サンキュー・レター」を発送。
- ホリデー・パーティーの開催（ボランティアの家族も招待）。
- ボランティア専用控え室の提供（お茶やコーヒーの飲める休憩所）
- 交通費や昼食の支給はなし。

### (7) 問題点・将来構想

- 年々ボランティアの平均年齢が高齢化していることが問題。アメリカ全体の傾向として、昔より人々はボランティアをしなくなっている（共働きの増加／レクリエーションの多様化／中産階級の生活の貧困化などが原因）。
- 140人のボランティアを得てはじめて運営の成り立っているスナッグ・ハーバーとしては、公共の芸術予算削減から有給スタッフも削減の傾向にあることもあって、常に新しいボランティアをリクルートする努力をし続けないと近い将来ボランティアは枯渇し、スナッグ・ハーバー自体の存続の危機に関わってくる。

## 3. ボランティア参加者の意識

### (1) ボランティア参加の動機

#### ① Marie Penza さん（有給のボランティア・コーディネーター）談

- 第一に「社交」。リタイアした人にとっては「家から出て人と出会う」ということに意義があるから。
- 「スナッグ・ハーバーの一員でいたい」という気持ち。スナッグ・ハーバーは、「ニューヨーク市」という世界の芸術都市・大都会のイメージからかけ離れたスタッテン島において、唯一マンハッタンにも自慢できる巨大な文化施設。そのことに、住民は絶大な誇りと愛情を持っている。
- ボランティアの仕事を通じて充足感を味わえる、新しい経験ができる。
- パフォーマー、アーティストと直接知り合える（言葉を交わせる）機会が



あることも動機のひとつ。

② Bevely Ziel さん（ボランティア歴 6 年、定期的に週 3 日＋イベントの手伝い全般を担当）談

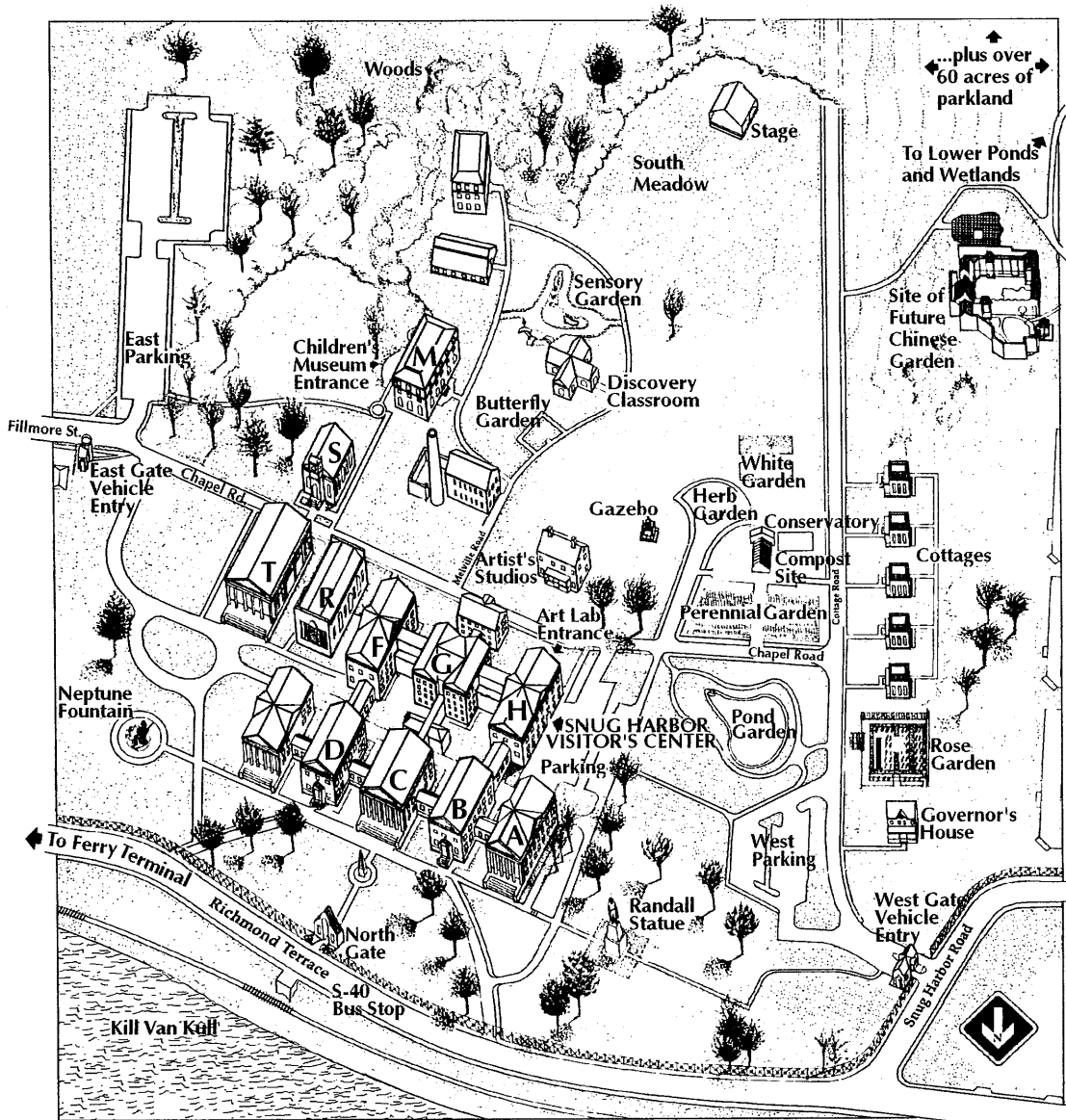
- 第一に、知的好奇心・知的刺激を得られること。Ziel さんは働いた経験がないので、特にオフィス内での事務アシスタントなど「ビジネス経験」に対して充足感を得ることが多い。
- 同じ興味を持つ友人を得られること。
- 自分の子供が小さかった頃からスナッグ・ハーバーは生活の一部になっていた（学校の課外授業、家族で夏の野外コンサート観賞等々）から、いつかは“この一員になりたい”と思いつけてきた。だから、子供が手を離れたのを契機に、ごく自然にボランティア参加を希望した。実現できて満足だし、まだまだ色々なことに参加したい。

(2) 施設側への希望・要望（Bevely Ziel さん：ボランティア歴 6 年、定期的に週 3 日＋イベントの手伝い全般を担当談）

- ボランティアに対して「感謝」の意を持ってもらうこと、そしてその意を何らかの形で「表現」してもらうことはとても大切。大掛かりな感謝イベントである必要はまったくないが、例えば、「サンキュー・レター」をある程度の頻度で受け取ること、小さなお茶会でスタッフとの懇談会が持てること、などによって非常に充足感が得られる。
- 逆に言えば、ささいなことでも「Thank You!」と言ってもらうことだけが、ボランティア側の唯一の要求と言ってもいい（この点についてスナッグ・ハーバーには問題はない）。

－以上－

資料 SHCC-1 : 施設配置



**Principal Buildings**

**A & B** Future Home of the Staten Island Institute of Arts and Sciences

**C** Newhouse Center for Contemporary Art & Access Gallery

**D** John A. Noble Collection

**H** Snug Harbor Visitor's Center, Reception & Admin.; Botanical Garden Offices; Art Lab (Stair at South end of bld'g.)

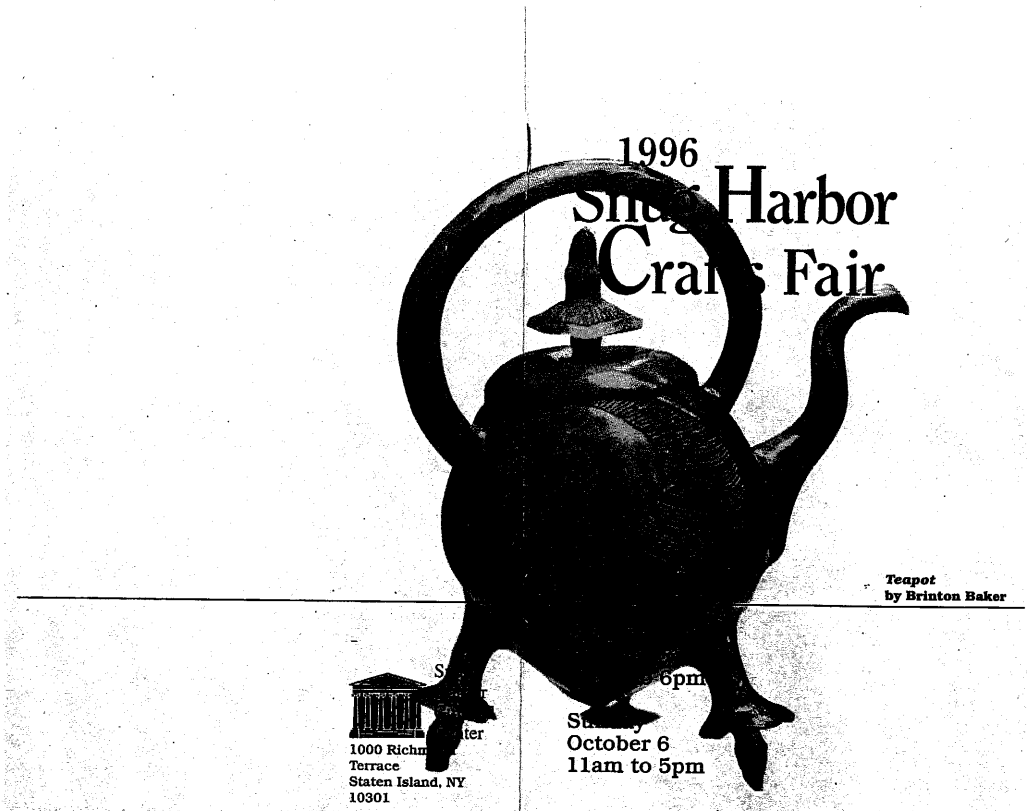
**G** Melville's Cafe, (Enter through Visitor Center)  
**M** Staten Island Children's Museum

**R** Great Hall  
**S** Veterans Memorial Hall

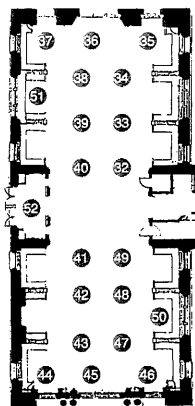
**T** Music Hall

資料 SHCC-2 : 1996 Snug Harbor Crafts Fair

—同イベントのパフレットより—

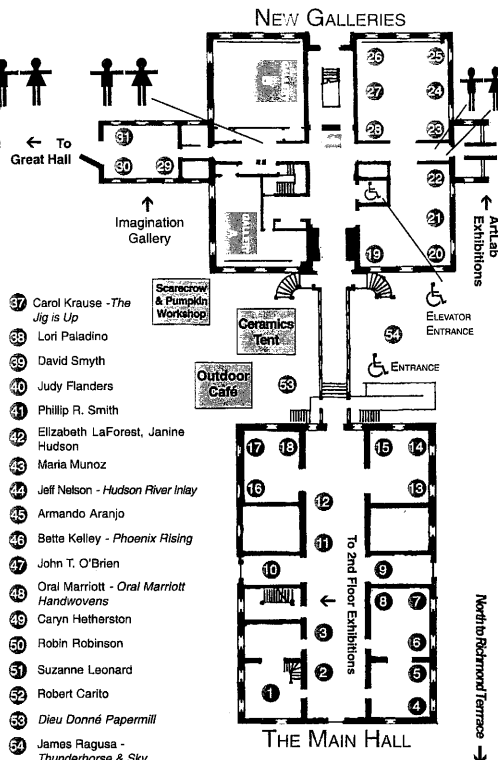


- EXHIBITORS**  
**By Booth Number**
- Main Hall**
- 1 Sharon Milstein, Alison Eldin, Riva Renes, Emma Crawford
  - 2 Lisa Lytle - *Lytle Glass Art*
  - 3 Irene Lantz - *Manu Designs*
  - 4 Jim Wolnosky, Pamela Timmons
  - 5 Rebecca Ann Robertson
  - 6 Poogy Bierklia/ Ceil Langer - *Enduo*
  - 7 Agnieszka Potoczek - *Agusha, Leda Lee*
  - 8 Megan Daly - *Streamside Pottery*
  - 9 Andrea & Saint Maurice Phillips
  - 10 Robert Brown
  - 11 Adrienne Jennings
  - 12 Margaret Neher
  - 13 Gloria Orzechowski
  - 14 Leonore Alaniz - *Turn A New Leaf*
  - 15 Yetta Colodna
  - 16 Brinton Baker - *Stone Window Gallery*
  - 17 Otto Franek - *Franek Art Glass*
  - 18 Eleanor Katz
- New Galleries**
- 19 Shimon Kahloun
  - 20 Leslie-Bowman Friedlander- *Bowman Fiber Design*
  - 21 Irving Branman
  - 22 James & Matt Evans - *Waxen Candles, Inc.*
  - 23 Beatrice Bloom
  - 24 Ina Chapler
  - 25 Ingrid Jordan
  - 26 Eva Capobianco



THE GREAT HALL

- 27 Malachi McCormick - *The Stone Street Press*
  - 28 Kathryn Pearce - *Kallima Designs*
  - 29 Pearl Lau
  - 30 Maggie Vail, Ingrid Cusson
  - 31 Marguerite van Stolk
- Great Hall**
- 32 Donald Thieberger & Karen Klaussen - *Platypus Pottery*
  - 33 Grettal & Ricardo Miguez
  - 34 Lucine Baronian
  - 35 Clay Workman - *Workman's Woodworks*
  - 36 Bernadette Darche



THE MAIN HALL

資料 SHCC-3 : Newsletter に掲載されたボランティア関連の記事

—Columns | The Snug Harbor Cultural Center Newsletter, October/November 1996 より—

## Volunteer Views

We are delighted to announce the appointment of Cindy Selmon, as the Volunteer Representative to Snug Harbor's Board of Directors. Cindy, a long-standing volunteer who has an extensive knowledge of the site and whose lively historical accounts of life at Snug Harbor have educated and entertained countless visitors, replaces Shelia Reh. We wish Cindy the best in her new position and extend our appreciation to Shelia for her tireless devotion to Snug Harbor—which we certainly hope will continue.

Thanks to all the volunteers who gave their time, energy, and support to the weekend programs over the summer. Whether collecting tickets, passing out programs, selling raffle tickets, staffing the membership & information tables, meeting & greeting the public, conducting tours, or working in the Gift Shop, you helped make the Harbor's summer a terrific success.

We regretfully announce the departure of Gift Shop bookkeeper Rosemary Mitchell. Over the past two years Rosemary devoted many hours to her duties. Her dedication and valuable expertise greatly contributed to the success of the Gift Shop. We are immensely grateful to Rosemary for the time and effort she has contributed and we wish her the very best.

And while we're on that subject, Gift Shop volunteers are certainly needed. If you have any expertise in bookkeeping or a financial background and would like to volunteer some of your time, please contact Marie Penza at 448-2500. We are also seeking Gift Shop assistants. The **Annual Gift Gathering** will be held November 22-24. As always, many volunteers will be needed for this special event. Volunteers are asked to work in 3-hour shifts.

The Volunteer Office apologizes for the error in the August/September *Columns* regarding the Winterthur trip. The trip is scheduled for Saturday, 11/16, *not* 11/7. Please note the change. Seats are still available. A seasonal Yuletide tour, luncheon and a Decorative Arts tour of the former estate of Henry Frances Dupont are included. The cost is \$75/\$70 Snug Harbor Friends.

Welcome new volunteers Suzzette Roberts, Sejal Parekh, Lee Webb, Alex Genato, William Blocker, Peter Vitiello, Kevin Swords, Kim Cullum, James Sigman, and Anthony Barchitta!

資料 SHCC-4 : ボランティアの情報に関するアンケート用紙



**Snug Harbor Cultural Center**

1000 Richmond Terrace  
Staten Island, New York 10301-1199  
718-448-2500  
Fax # 718-442-8534

**VOLUNTEER RESOURCES QUESTIONNAIRE**

Date: \_\_\_\_\_

Name: \_\_\_\_\_

Address: \_\_\_\_\_  
(Street) (Apt.#) (City/State/Zip)

Home Telephone: \_\_\_\_\_ Business Telephone: \_\_\_\_\_  
(Area Code+No.) (Area Code+No.)

Current Employer: \_\_\_\_\_

Address: \_\_\_\_\_

Occupation / Profession: \_\_\_\_\_ Years Employed: \_\_\_\_\_

Education:  
College: \_\_\_\_\_ Degree: \_\_\_\_\_

High School: \_\_\_\_\_

Other Employment Experience: \_\_\_\_\_

Volunteer Experience: \_\_\_\_\_

Special Skills: (please circle) Telemarketing; Word Processing; Computers; Typing;  
Marketing/Public Relations; Baking; Crafts; Educational; Accounting; Bookkeeping;  
Writing; Other \_\_\_\_\_

When are you available?  
days: \_\_\_\_\_ evenings \_\_\_\_\_ weekends \_\_\_\_\_

In Case of Emergency:  
Name: \_\_\_\_\_ Phone No. \_\_\_\_\_